

【倫理委員会活動報告】

開かれた技術者倫理のありかた：公益社団法人日本工学会技術倫理協議会へのインタビュー

電気学会倫理委員会

技術者倫理教育活動インタビューとして、9月25日に、電気学会も参加している公益社団法人日本工学会技術倫理協議会の大輪武司議長にインタビューに伺いました。

一貴会が技術倫理協議会の活動を行っている経緯と背景を教えてください。

大輪：2003年7月に、日本機械学会の長島昭先生が各学協会へ呼びかけて「技術倫理を各学協会ですべて対応しているかをお互いに話し合うための会合」を立ち上げたのがきっかけです。1999年にJCO事故、山陽新幹線福岡トンネルのコンクリート塊落下事故が相次ぎ、技術に対する社会の視線が厳しくなったことをふまえ、2000年前後に各学協会が倫理規定を設け始めたことが背景にありました。3回の会合を経て2003年11月に技術倫理協議会の発足を決議し、翌年4月に技術倫理協議会として9学協会の参加のもと第1回の会合を開催しました。当初は、議長を輩出した学協会が事務局を務めることとしたため、最初の3年は日本機械学会、次の3年間は土木学会が事務局の役割を果たしてきました。しかし、学協会を超えた活動は日本工学会の役割であるという考えのもと、2010年からは同学会の組織に組み入れられて活動しています。私は2011年から議長を務めています。現在は、日本機械学会、土木学会、日本技術士会、日本建築学会、日本工学教育協会、日本原子力学会、電子通信情報学会、日本工学アカデミー、日本化学会、電気学会、日本鑄造工学会、安全工学会、日本非破壊検査協会、日本マリンエンジニアリング学会、日本工学会の15学協会が参加しています。

—主な活動内容を教えてください。

大輪：情報交換を行うとともに、年1回の公開シンポジウムを開催しています。2005年10月に第1回を「技術倫理に対する学協会の取り組み—現状と今後の課題—」と題して開催したのを皮切りに、2011年まで7回開催されています。昨年度は3.11に関連して「安全と安心」を取り上げ、今年度は12月12日に専門家と一般人とのコミュニケーションをどうつなぐかという視点で科学コミュニケーション

を取り上げる予定です。東日本大震災前後で技術に対する信頼度が落ちているとの調査結果もあり、それをどのようにして回復していくのか、公開シンポジウムを通じて議論したいと考えていますので、是非、多くの方に参加していただきたいと思っています。

また、これまでは情報交換の取り組みが中心でしたが、今後は講演の開催やワーキンググループ活動といった実質的な活動を行っていきたいと考えています。電気学会をはじめ各学協会が技術者倫理に関する事例集を作成していますが、ワーキンググループでは、それらをもとに過去の事例分析を掘り下げて事故の予防につながる視点で事例集を作成したいと考えています。

—最後に、電気学会における技術者倫理に関する活動や会員へのご意見がありましたらお願いします。

大輪：学協会のなかでも、電気学会が扱う領域は純粋なサイエンスというより“モノづくり”に近いのではないのでしょうか。技術者が設計した製品は、一般の方が使用することになります。したがって、絶対に間違いは許されず、技術者倫理はその根幹をなすものです。

また、倫理綱領・行動規範は社会に対して自らの行動を宣言するもので、学校の校則のように会員の行動を縛るものではなく、良識的に行動する会員を守るものと考えています。

そのためにも電気学会の技術者倫理活動はとても重要となりますので大いに期待しています。

—技術倫理協議会は多くの学協会が参加していますのでご苦勞も多いと思いますが、今後も情報提供を通じた学会活動へのご支援と議論の場の提供をお願いします。

本日はどうもありがとうございました。

倫理委員会は、技術者倫理の啓蒙活動に加えて、広報委員会と協力して、電力エネルギーについての広報活動にも貢献いたします。

(インタビューア：倫理委員会 土井美和子、大浦一隆
紙面の都合上、インタビューを短縮してまとめています)